

山江村議会だより

No.95

まるおか



令和7年山江村消防出初式（1月12日）
山江保育園園児による通常点検

目次

- 第6回定例会 P2
- 一般質問 P3～7
- 編集後記「だんだんなあ」..... P8

令和7年1月31日発行

発行：山江村議会

編集：広報編集特別委員会

熊本県球磨郡山江村大字山田甲1356-1

☎(0966)23-3401

FAX(0966)24-5669

山江村域内電話 ☎23-3401

令和 6 年第 6 回 山江村議会定例会

令和 6 年 12 月 10 日から 12 日までの 3 日間、山江村議会 12 月定例会が開催され、発議 1 件、承認 1 件、同意 1 件、諮問 1 件、条例・予算 15 件が原案どおり可決されました。

可決した主なものは

■専決処分事項に関する承認

衆議院議員総選挙に係る経費について、緊急に予算措置する必要があるため、歳入歳出それぞれ 4,512 千円を追加し、10 月 2 日に専決処分したものを。

■山江村固定資産評価委員の選任に関する同意

10 月の人事異動に伴い、現税務課長の今村禎志氏を同意することに決定した。

■山江村人権擁護委員の推薦に関する意見を求めること

現委員の任期満了に伴い、新たに稲田千代香氏（第 9 区）を適任と認め推薦するもので、法律の規定により、議会の意見を求めるもの。

■山江村電気自動車用急速充電器の設置及び管理に関する条例の制定について

山江村役場の敷地内に電気自動車用急速充電器を設置することに関して、新たに条例を制定したものを。

■山江村税条例の改正

納税者の便益及び税負担の平準化を図るにあたり、各税の納期を変更するため条例の改正をしたものを。

■令和 6 年度山江村一般会計補正予算（第 5 号）

農道の補修工事や電気自動車の導入など、歳入歳出にそれぞれ 75,400 千円を追加し、歳入歳出それぞれ 5,243,833 千円とするもの。

質 疑

白川議員

住宅使用料が当初予算の倍額となっているが、その理由は？

答 弁

総務課長

災害派遣職員の滞在先変更に伴う家賃の増額。

■令和 6 年度山江村特別会計国民健康保険事業補正予算（第 2 号）

システム改修に係る国庫補助金の増額など、歳入歳出にそれぞれ 2,237 千円を追加し、歳入歳出それぞれ 395,537 千円とするもの。

■令和 6 年度山江村特別会計介護保険事業補正予算（第 2 号）

会計年度任用職員の手当など、歳入歳出にそれぞれ 380 千円を追加し、歳入歳出それぞれ 597,842 千円とするもの。

■令和 6 年度山江村簡易水道事業会計補正予算（第 3 号）

各水源地等電気代 3,840 千円など、収益的支出の予定額を 5,335 千円補正するもの。

■令和 6 年度山江村農業集落排水事業会計補正予算（第 2 号）

処理場費 800 千円など、収益的支出の予定額を 893 千円補正するもの。



横谷 巡 議員

■ 高齢者への補聴器購入費の助成を！

■ 石蔵活用拠点整備事業の賑わい創出は！



耳の不自由な高齢者の実態調査は

問

耳が聞こえにくくなつて、困っている高齢者がどのくらいおられるのか。

答 健康福祉課長

包括職員による訪問調査では、訪問全体の約20%の方が老化により聞こえにくいなどの症状があるとの結果である。

補聴器購入費の一部助成の考えは

問

安心な暮らしのために、補聴器購入費の一部助成の考えはないか。



答 健康福祉課長

介護予防の面から重要であり、聴力に不安を持つ方の検診の予算化を考えていきたい。

石蔵活用拠点整備事業による活性化は

問

本事業が一過性でなく、持続的に活性化を果たして行くためには、やまえ栗の生産量確保が必要不可欠で、そのための振興施策は。



石蔵活用拠点整備事業の計画地

答 産業振興課長

耕作放棄地になり得る水田等の新植に係る実証実験の情報提供、気候変動に対応した晩生の品種を増産する指導、新植、改植、接ぎ

木、品種転換の推進など樹園地の集約、集積化を図りながら、生産量の増産に努め、栗の安定確保につなげていきたい。

魅力ある商品開発で販売戦略の構築を

問

地理的表示登録による商品の差別化要因の明確化、ブランドの方向性、販売戦略の検討を行い、魅力ある商品開発で販売商品を増やし、ふるさと納税やネット販売により、農家所得、栗産業の振興を図る考えはないか。

答 企画調整課長

石蔵活用拠点整備事業には、民間事業者の参画も計画しており、連携しながら魅力あるやまえ栗の商品開発、販売に取組み、反響の多い商品ができたときには、ふるさと納税の返礼品など販売戦略として活用していきたい。

これからの村づくりに向けた位置づけは

問

本事業のこれからの村づくりに向けた位置付けについて、どのように考えているか。

答 村長

村の大きなプロジェクトであり、基本計画策定中で、その準備をいま着々と進めている。

施設そのものをよく理解していただくためには、石蔵を活用した「栗の駅」と言った方がイメージが湧き、ここを拠点として、農村づくり、地域づくりなど、幅広い話し合いの核となる施設・事業であり、必ず成功するように導いていきたいと考えている。





本田 りか 議員

山江村における脱炭素に向けた取り組みについて

「山江村総合公園基本計画」について

村営住宅の補修工事について



「山江村総合公園基本計画」の進捗状況は

問

数年前よりこの計画が出ているが、現在の進捗状況と今後の計画はどのようなになっているのか伺う。

答 企画調整課長

平成29年3月に策定した計画では、今ある資源を最大限に活用し、山江村全体を大きな総合公園とみなした「山江まるごと公園」を基本理念とし、村内それぞれの特色に合わせ、「山田エリア」「丸岡エリア」「万江エリア」に分け、エリアごとに整備方針定めて検討を進めている。

「山田エリア」については、穏やかな時が流れる田園空間をコンセプトに、フットパスイベントの

実施に取り組んでいる。

「丸岡エリア」については、花と展望が広がる色の丘として、桜やツツジの維持管理を進めながら、環境整備に努めている。

「万江エリア」においては、清流が流れせせらぐ空間として、親水公園の整備の検討も進めており、令和3年度には「親水公園資料策定業務」に着手し、今年度においては「山江村総合公園建設検討委員

会」で親水公園候補地の現地調査を実施した。

今後の計画として、丸岡公園においては近年、サッカー場として農村民場の利用も増えていることから、スポーツ施設として整備の検

討を進めている。「万江エリア」においては、令和2年7月豪雨からの復旧工事が進められており、今後は河川整備計画により県の工事も進められることから、万江川の河川管理者である熊

本県と連携しながら、親水公園の整備に向けて協議を進めたいと考えている。

※他に「山江村における脱炭素に向けた取り組みについて」「村営住宅の補修工事について」で質問した。





白川 俊博 議員



■ 村内小中学校の現状について

■ やまえ温泉ほたるの運営状況について

■ 県道の整備と維持管理について

■ ケーブルテレビの利用内容について

問

今後予想される児童生徒数の推移は。

安全な登下校は
“道路点検”“見守り”
“正確な判断”

答 教育長

年度	児童生徒数
令和 7年	305 人
令和 8年	292 人
令和 9年	287 人
令和10年	266 人
令和11年	248 人

問

不登校の実態は。

答 教育長

令和6年度は、小学校1名、中学校2名。

問

登下校の安全対策は。

答 教育長

毎年の通学路点検、防犯ボランティアの見守り登校、異常気象時は正確な情報



見守りボランティアと登校する山田小の児童

報で判断し、子供たちの命を守る対策を講じている。

問

近年の温泉施設の利用者数は。

今後は、施設リニューアル・新しい泉源掘削・民間移行など検討

答 企画調整課長

年度	利用客
令和元年	11万6千人
令和2年	8万6千人
令和3年	10万人
令和4年	11万人
令和5年	9万2千人
令和6年	5万人(9月末)

問

施設周りの環境維持は。

答 企画調整課長

施設周辺は休館日に職員で清掃、山林の樹木等は所有者へ伐採願う。

問

温泉施設の不動産鑑定が実施された、運営についての具体的な検討を進めるのか。

答 村長

時期を迎えた施設のリニューアル、燃料など固定経費の削減のため新しい泉源の掘削、更に民間移行など様々な情報を収集し、方向性を検討して行く。

危険な支障木は伐採へ

問

県道坂本人吉線の整備状況は。

答 建設課長

神園地区の舗装と安全施設、淡島地区の道路嵩上げ、白岳地区の落石防護柵、大川内地区の舗装と防護柵の設置など。



駐車場も満杯の温泉ほたる

問

淡島地区から葛地区までの支障木伐採の要望の考えは。

答 建設課長

県に確認をしたところ、緊急性がある樹木については速やかに伐採を行う。それ以外は、所有者へ伐採をお願いすることであった。



危険な支障木が繁茂する県道坂本人吉線

問

民営のケーブルテレビは、減免措置の継続を検討

民間移行後も使用料の減免措置は引き続き受けられるのか。

答 村長

移行後の減免等の措置は、生保世帯や75歳以上の高齢世帯等の負担軽減に向けて継続したいと考えている。移行先と協議を行い村単独の支援として検討する。



赤坂 修 議員



■ 圃場整備について

■ わいわいクリスポやまえ「スケボークラブ」について

水田の改良支援を

問

水はけなどの状況や条件が悪い水田については作業委託先が見つからない。米を作りたいが水はけや深くなって耕作できないというような意見や状況を把握しているか。

答 産業振興課長

水はけ等の対策については意見や話は聞いているが具体的な対策にまで、現在のところ至っていない。

問

水田の圃場整備については、個人での対応になると思うが今現在何か支援策は考えておられるのか。



答 産業振興課長

本村の基幹産業である稲作の圃場を守り、次世代へつないでいくために何らかの対策が必要ではないかと感じているが補助ができるかどうかについては財政面のこと、個人の財産ということもあるため、慎重にならなければいけないと思っているが、調査、検討を進めていきたいと考えている。

スケボー練習場所の支援を

問

旧栗選果場で練習しているスケボークラブに対して解体に伴う対応は。



答 総務課長

令和7年度からの賃貸契約は行わないという通知をした。

答 総務課長

適切な場所を探していただきたい。その場所が村有地、公共施設であればその借用についても前向きに検討させていただきたいと思っている。

答 村 長

旧栗選果場の清掃や手作りのセッションで活動されているクラブについて村の石蔵活用拠点整備事業に伴う旧栗選果場解体ということとの撤去ということもあり行政として丁寧な対応をお願いしたいと思うが。

スケボークラブの方が私の所へ来て直訴があつて旧栗選果場を練習場所として一年契約で安全面に注意してもらいながら活用していただいている。石蔵活用拠点整備事業の計画により追い出す形になったが、クリスポということで教育委員会の方でもあり、諸々どのような場所がいいのかということも含めて、相談に乗っていききたいと思っている。



北田 愛介 議員



■ 有害鳥獣捕獲に対する支援の充実を ■ 山江村エネルギー計画の 具体的な政策を伺う ■ 不登校問題について

鳥獣害対策の現状と課題は

問

鳥獣害対策は各種の補助金により捕獲頭数が増加しており効果が見られるが、捕獲隊の現状と課題を伺う。

答 産業振興課長

捕獲隊は46名で平均年齢は66・3歳、若い方も増加しているが60代、70代の方が多い。実際の活動人員を増やすことが課題である。

問

国はICT技術を取入れて捕獲の省力化と自治体の負担軽減を図る新事業を展開しようとしているが、本村においてもスマート捕獲を導入する考えはないか伺う。

答 産業振興課長

罾の見回りなどの軽減に繋がる。補助事業を見つけないが導入に向けて調査を進める。

問

捕獲隊に対する補助金改定が必要ではないか

狩猟免許更新時に必要な経費を新たに補助する考えはないか。

答 産業振興課長

銃の免許所持者は25名捕獲頭数の実績や近隣の自治体の動向も見ながら検討する。

問

猟銃用の弾頭や車の燃料も高騰している。補助金の増額改定を検討する考えはないか。

答 村長

どれくらい有害鳥獣対策として動かれるかが基準になる。周りの町村と金額を合わせる必要もある。猟友会の方々との意見交換により聞き取りながら検討していけばと思っている。

エネルギー計画をどのように進めるのか

問

山江村のエネルギー問題の現状と課題、更には再生可能エネルギー導入へ向けた基本的な方針を伺う。

答 企画調整課長

温室効果ガスの抑制など脱炭素の村民認知度は7割程度あるが、導入割合は導

答 村長

入ポテンシャルの1%未満。住民の脱炭素行動を促す仕組みづくりが必要。脱炭素を活用して自然環境の保全、環境意識の向上、次世代への教育、雇用の促進、雇用機会の創出等地域課題の解決を図り、エネルギー地産地消に向けた仕組みづくりと地域振興に取り組む。

山江村は3億5千万円の電気代を外部に出している。山江村で17メガの発電力があれば賄える。加えて台風や地震等の災害時にも独自の電力が取れる。又、森林経営計画に基づいて山を手入れするとCO₂を多く出している会社は1反当たり5、6万円のJクレジットとして売れることもできる。そのような総合的な取り組みにより2050年カーボンニュートラルを目指す。

※この他に「児童生徒の不登校問題について」質問した。

議員活動の一コマ



第2回熊本県町村議会議員研修会

令和7年1月23日（木）今年度2回目となる熊本県町村議会議員研修会が行われ、全議員が出席しました。今回は日本農業の課題と題し、東京大学特任教授・名誉教授、また、食料安保推進財団理事長でもある、鈴木宣弘氏を講師に迎えオンライン形式での講演会でした。

内容は、日本の食料自給率の低さ、他国からの輸入品が市場を埋め尽くす危機的状況、また、日本の農業、命の源である食料を守るためにはどうすればよいのか等、約150ページにわたる資料を基に説明がなされ、とても有意義な研修となりました。



だんだんなぁ

村民の皆様には、ご家族お揃いで健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より議会及び広報活動に對しましては、ご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。

また、昨年発生しました能登半島地震、豪雨災害の甚大な被害に對しましてお見舞い申し上げます。

12月議会定例会を中心とした「広報まるおか」をお届けいたします。

議会での各議員の活動、発言、委員会の協議審査内容を村民の皆様にご理解いただければ幸いです。

一般質問、議決議案はいずれも皆様の生活に直結する極めて大事なものであります。わかりやすい表記に努めておりますが、お読みいただきかがだったでしょうか？

今年も活発な議会活動をお伝えするため、工夫研究してまいりますので宜しくお願いいたします。

（文責 久保山 直巳）

【山江村議会広報編集特別委員会】

委員長／本田 直巳
委員／白川 俊博
久保山 直巳
北田 愛介